



聖仁会だより

2019

3.22

Vol

19



編集 広報担当

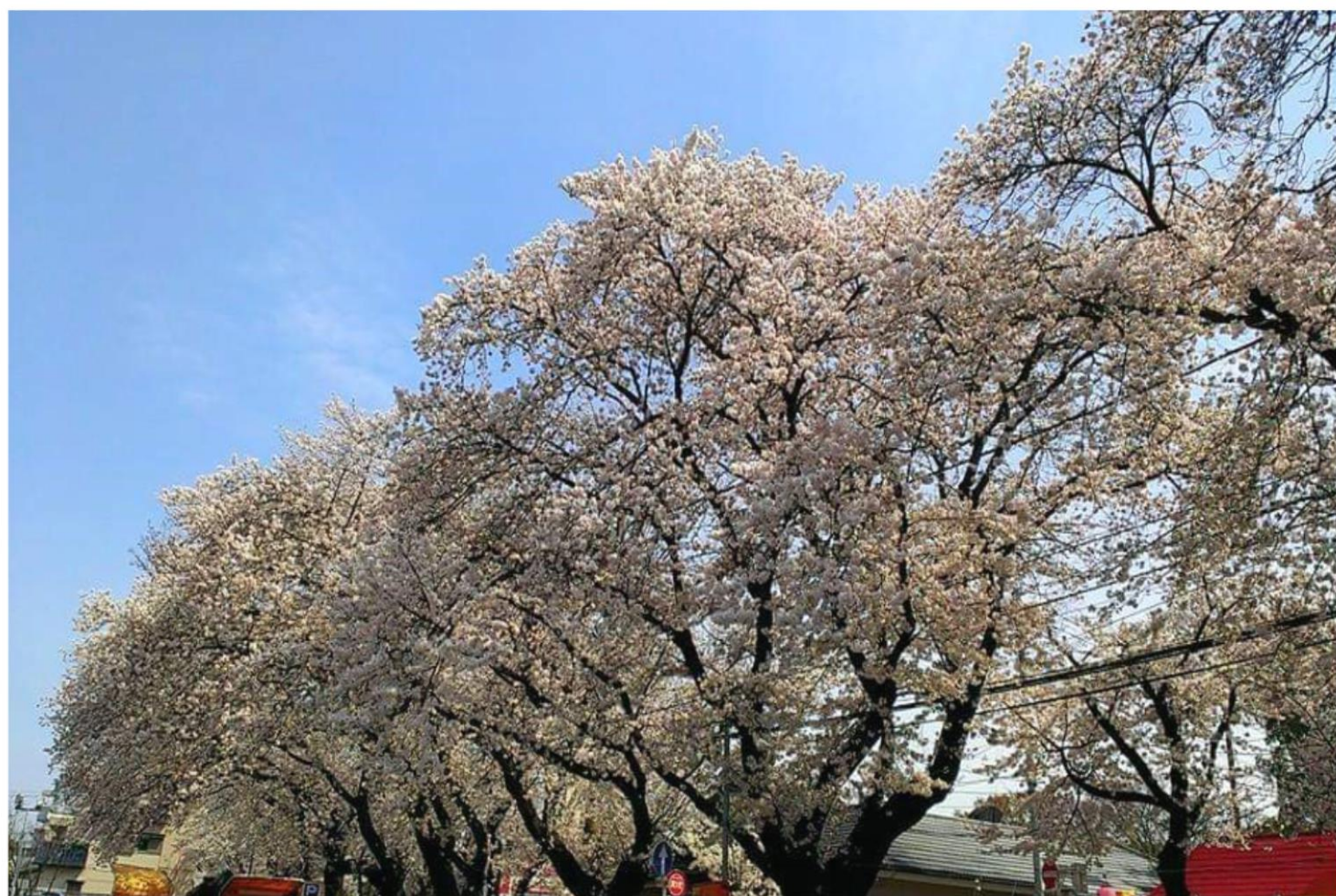
医療法人社団聖仁会 白井聖仁会病院

〒270-1426 千葉県白井市笹塚3-25-2

TEL:047-491-3111 FAX:047-491-3128

URL: <http://seijinkai-shiroy.jp/>

E-mail: shiroy@sjkhp.com



// トピックス //

◆特集：乳がんの基礎知識

◆コラム①

◆お知らせ

- ・医療連携懇会
- ・協定締結式

◆コラム②

写真提供…院内スタッフ
『春爛漫』

特集

feature
articles



乳がんの基礎知識

～検診のすすめ～



・乳癌治療の変遷

がんはリンパ節を介して全身に転移する為、局所を可能な限りリンパ節を含め広範囲に切除するという Halstead の考えから、乳癌には拡大手術が用いられていました。しかし、縮小手術でも術後の成績に大差なかったことから、1980 年 Fisher は手術可能な時期にはすでに全身に広がっているという全身病説を提唱し術式が見直されるようになりました。近年では、胸筋温存や乳房温存療法など縮小手術の傾向にあります。乳癌の治療は、2 年毎スイスの St.Gallen で開かれる乳癌国際会議で推奨された薬物療法中心の治療指針や、科学的根拠に基づいた日本乳癌学会の乳癌ガイドラインを参考に行われています。

現在では、手術や放射線照射の局所的治療と、がんの生物学的特性により5つのサブタイプに分類し、タイプ毎にホルモン療法、分子標的療法、化学療法などの全身治療を組み合わせた集約的治療が行われています。最近では浸潤・増殖・再発に関連する 21 の遺伝子を測定し（オンコタイプ DX）、どの程度再発しやすいか、術後化学療法がどの程度効くのかを予測できる検査法もあります。

・乳癌罹患率の増加と一次検診

がん罹患率では 1998 年に胃がんを越し女性のがんのトップになり、生涯で乳癌に罹患する確率は 2005 年では 16 人に 1 人でしたが、2014 年のデータでは 11 人に 1 人と増加傾向にあります。米国やイギリス、フランス、ドイツなど主要国は罹患率の上昇にも関わらず 1990 年代に入り死亡率は減少しています。日本では罹患率の上昇程ではありませんが死亡率も上昇しています。このことからマンモグラフィ検診による早期発見の重要性が以前から言われ続けて来ました。2010 年の検診率では米国 80%、フランス 75%、イギリス 72%、日本では 36%とかなり低くなっていますが、会社や個人などの任意型検診を把握できればもう少し高くなると思われます。先日、当院女性職員対象に行った乳がんの講演参加者 86 人のうち 30~60 歳代 68 人に行ったアンケート調査での検診率は 75%でした。

2008年全国乳癌患者登録調査報告による乳癌の初診の内訳では、無症状で自己発見した場合が最も多く（63.8%）、検診で見つかった場合は28.4%でした。見つかったしこりの大きさは、自己発見で2.1～5 cm、43.3%、検診の場合は1.0 cm以下が最も多く37.6%でした。腫瘍の大きさが2 cm以下、リンパ節転移のないStage Iだと治療成績はかなり良好ですが、視触診による自己発見はなかなか容易ではありません。たとえがんになっても、小さなうちに見つけるためには、検診を定期的に受けることが欠かせません。

さらに最近、問題になっているのがマンモグラフィ検診において、乳腺実質における脂肪の混在する程度により感度（乳癌の人が陽性とする確率）が異なる点であります。脂肪性、乳腺散在、不均一高濃度、極めて高濃度の4型に分かれますが不均一高濃度、極めて高濃度を合わせて高濃度乳房（dense breast）と定義されています。乳がんを含めしこりは白く写るため、高濃度乳房では発見しにくい場合があります。日本人の約40%、40歳台の約60%が高濃度乳房で、感度も30～50%と低いため、異常を見逃す可能性もあります。高濃度乳房は個人の乳房の個性（体質）であり、決して病気ではありません。しかし、検診では高濃度乳房であるだけでは要精査にならないため、追加検査（エコーなど）の必要性や受診者の乳房の構成を知らせるかどうかについては、これからの論議がまだまだ必要な段階です。世界初・日本発の研究（J-START）では、デンスブレストが多い40歳代女性に対して、マンモグラフィにエコー検査を追加することにより、乳がん発見率、早期乳がん発見率、感度が上昇するとの報告もあります。

・乳癌のリスクと個々の状態に応じた検診

乳癌全体では閉経前乳癌は約35%、閉経後乳癌は約65%ですが、そのうち約70%にホルモン感受性があります。乳癌の発症年齢は30歳以降から急に増え、45～49歳頃ピークに達し、30～60歳で一番多いがんが乳癌です。女性ホルモンであるエストロゲンは、閉経前は卵巣から分泌され、閉経後は副腎から分泌される酵素の作用により脂肪組織から作られます。ハイリスクとして3つのグループに分けられます。①内因性女性ホルモンに関連する因子として、初潮が早い、閉経が遅い、初産年齢が遅いまたは高齢で未産などエストロゲンにさらされる期間が長いなどです。②外因性ホルモンを含む生活様式として、高脂肪食、肥満など（特に閉経後の女性で、脂肪組織でエストロゲンが作られる）があげられます。③血のつながった家族や親戚に乳がんにかかった人がいる場合など遺伝的素因が乳癌の5～10%あるといわれています。

高濃度乳房や若年者の場合、マンモグラフィ検診の限界もあり、超音波検診の追加や、リスクの高い女性では、年1回のマンモグラフィ検診だけでなく超音波検診との併用、時には乳房MRI検診も必要であると考えます。

お知らせ

日本医科大学千葉北総病院との 医療連携懇親会

2/27



緩和ケア内科医師
小杉 依子

緩和ケア認定看護師
殿内 久美子

平成29年6月より緩和ケア病棟がOPENし、この度、初めての連携会が開催されました。

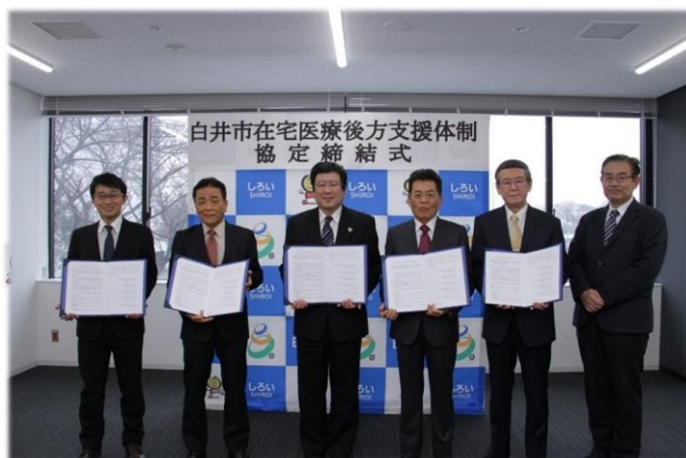
日本医科大学千葉北総病院の医師3名、看護師7名、リハスタッフ4名、MSW・事務スタッフ4名の計18名の職員が来院され、情報の交換を行いました。



3/4

白井市と医療機関の 協定締結式

(4/1～施行)



市内に居住する在宅療養患者に入院が必要となった場合に、入院先の確保が円滑に行われることを目的としております。白井聖仁会病院を含めた白井市内の病院が後方支援として機能することで在宅療養患者及びその家族が安心して日常の在宅療養生活を送ることが出来ます。この協定は訪問診療・往診・在宅医療のかかりつけ医の入院依頼に基づき、3病院いずれかが受け入れる事等を定めています。今後地域の在宅医療に対する取り組みの強化が期待されます。

コラム

『MRI』のおはなし

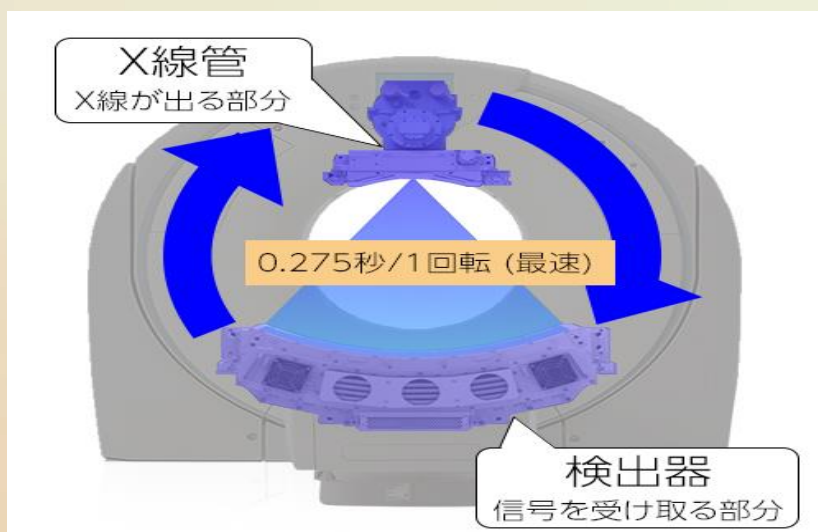
白井聖仁会病院 放射線科

MRIとは、Magnetic(磁気)Resonance(共鳴)Imaging(画像)の略称になります。同じような検査機器にCTがありますが、MRIとCTは何が違うのでしょうか？

『CT』は胸のレントゲン撮影などでも使用しているX線を発生させる【X線管球】を、体の周りにX線を出しながら高速回転させ、それを対向する【検出器】と呼ばれる機械で読み取ります。

体の組織によってどの位X線を通したかの差を、白黒で写真にしています。

肺など空気でX線を通す部分は黒く見えますが、骨のようにX線を少ししか通さない部位は白く見えます。



対して、『MRI』はX線を使わず、その代わりに【磁場】を使用します。

MRIはCTと同じトンネル構造ですが、MRIはトンネル自体が巨大で強力な磁石になっています。

人の体をこの強力な磁場の中に置き特定のラジオ波を照射すると、人体を構成する水分の中の水素原子が「右向けー右」と同じ方向を向きます。難しい言い方で【磁気共鳴】と言います。しばらくしてこのラジオ波を切ると各組織(水・脂肪・骨・癌など)は独自の速さで元の安定した方向に戻っていく性質があります。難しい言い方で【緩和】と言います。この戻る速度差を白黒で画像化したものがMRIです

どちらが優れているというのではありませんし、得意不得意も検査部位によってさまざまですので、目的に応じて使い分ける事が大切になります。

患者様の症状や病変に応じて、医師が適切に判断して検査を依頼しますのでご安心下さい。

みなさんはMRI検査を受けた事がありますか？検査中は工事現場のようにガタガタ音がうるさいですし、長時間じっとしていなければなりません。なぜあんなにうるさいのでしょうか？その理由はコイルの振動音にあります。

MRIは磁場を作るためにコイルに大電流を流すのですが、磁場だけでなく力（ローレンツ力）も発生します。フレミングの左手の法則（中学生の時に勉強した、『電』、『磁』、『力』）ですね。

分かり易く身近にあるもので例えるとオーディオのスピーカーが同じ原理です。スピーカーはコイルと磁石、振動板（コーン紙）でできていて、コイルに電気信号（電流）を流すと、コイルにつながっている振動板が前後に振動して音になります。



MRI検査中は、大きな磁石の中にある傾斜磁場コイルに電流を流します。すると、フレミングの左手の法則により力が生じ傾斜磁場コイルが振動します。その振動エネルギーが磁石本体などに伝わって音がします。いろいろな強さの電流を用いて磁場を制御しているので、さまざまな音が発生します。またトンネル状なので反響も大きくなりますし、特に頭部の検査では耳の辺りで振動音が繰り返されるのでより大きく感じます。



そこで、騒音を不快に感じる患者様には耳栓を準備しておりますので、お気軽にお申し付け下さい。ただし腹部の撮影の息止めの指示など、声が聞こえなければならぬ検査の場合、耳栓は使用できませんのでご了承下さい。

時間がかかる理由は、MRI画像は人体の水分から情報を読み取り、得られた情報を何回も重ね合わせて画像にしますが、その情報は膨大で処理するのに、ものすごく時間がかかります。これに加えて、同じ部位でも撮影条件や撮影方向を変えて何種類も画像を作ります。ですので診断に適する画像を得るためには時間がかかってしまうのです。

MRI検査は検査時間が長いデメリットもありますが、それを大きく上回る診断的価値があります。MRI検査について、不安なことや何かわからないことがありましたら、何でも放射線科までご相談下さい。

健診センター column コラム

白井聖仁会病院 健診センター

病気の早期発見につなげよう！

～健康診断・がん検診・人間ドックのすすめ～

春になるとお住まいの自治体、又は加入している健康保険組合や会社の保健室等から健康診断やがん検診のお便りが届きます。

自治体が行っているものは主に国民健康保険加入者や、企業など職場で健康診断を受ける機会の無い方、任意で健康診断やがん検診の希望をしている方などを対象としています。又会社の健康診断は働く人が心身共に健康でいられるように、従業員に対して健康診断を行うよう、法律により義務付けられているものです。

いずれも国の指針に従って、生活習慣病やがんの早期発見につなげたり、現在異常が無くても、将来どのような病気にかかる危険性があるかを予測し、原因となる食事や運動、喫煙、アルコールを含めた嗜好品の有無等、生活習慣の見直しを行う機会としています。

お便りが届いたら早めに今年度の健康診断・がん検診の予定を立て、ご自身の体調管理・健康増進に役立てましょう！



各種健康診断の予約を承っています。

白井聖仁会病院健診センターでは、人間ドックや特定健診・各種健康診断・白井市個別がん検診・予防接種を承っております。健診センター受付・お電話でお気軽にお問合せ下さい。

047-491-7596

(健診センター直通)

【健康診断 よくある質問】

Q 健康診断って毎年受けた方が良いですか？

A はい。今年もご自身が健康であることを確認して下さい。又、健康診断で経過観察している事等があれば、結果を確認しましょう。

Q 私はどんな健康診断を受けたら良いでしょうか？

A 体のどんな事を調べたいですか？もしくは職場など、どこかに提出が必要なものですか？教えて頂ければ、貴方に合うコースを提案する事ができます。

Q 特定健診って最近よく聞くけど、何ですか？

A 厚生労働省が推進しているメタボリックシンドローム予防(生活習慣病予防)の健康診断です。40歳から74歳までの全ての方が対象となっています。お住まいの市町村や加入している健康保険組合からお便りが届きますので、ぜひ受けて頂くと良いでしょう。

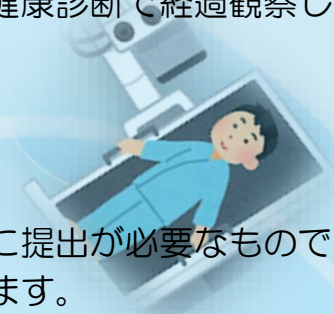
Q 胃カメラとバリウム検査、やらなきゃダメですか？やるならどっちが良いですか？

A ぜひやりましょう。2014年国立がん研究センターの統計では胃がんの罹患率(胃がんと診断された人)は男性で1位、女性で3位とどちらも上位です。

どちらが良いか、という質問はかなりの頻度で聞かれる事ですが、どちらも得意と不得意があります。検査を実施するにあたり、多少の辛さがあるのは変わらないでしょう。ですが年々、医療も進歩しており、どちらの検査も「数年前に行った胃の検査と比べて格段に楽になった！」と聞くことも多いです。又、どちらの検査も胃がんの死亡率低下を示す事が明らかとなっています。検診間隔としては様々な専門機関で、推奨している期間が異なりますし、自治体での実施においてもそれぞれです。家族歴やこれまでの検査結果などにより、個人差がある事も考慮した方が良いでしょう。

・バリウム検査はポリープや腫瘍を疑う凹凸が無いかを把握する事を目的とし、ニュース等でも時々耳にするスキルス性胃がんの発見については、胃カメラよりも有効な場合があります。

・胃カメラは口から食道、胃の中をカラーで目視する事ができ、一目瞭然です。凹凸の現れない粘膜の荒れ等も発見しやすくなります。早期胃がんの発見に関してはバリウム検査よりも優れています。ご自身の気になる事や希望も合わせて検査を決めると良いでしょう。





医療法人社団聖仁会理念

患者さま一人ひとりのかけがえのない人生の支えとなるように人に優しい医療・看護・介護を実践します

白井聖仁会病院基本方針

- 1 私たちは、患者さんの意思を尊重し、安心・安全な医療を提供します
- 2 私たちは、健康と生命を守るため日々研鑽に励み、質の高い医療を提供します
- 3 私たちは、地域と密に連携し、地域医療の発展に貢献できる病院を目指します
- 4 私たちは、時代に即し、地域のニーズに応えられる、満足度の高い病院を目指します
- 5 私たちは、心が通い合う、人生に夢と希望を抱ける医療を目指し、最善をつくします

患者さんの権利

- 1 安全で良質な医療を平等に受けることができます
- 2 人としての尊厳が保たれた医療を受けることができます
- 3 病気や治療について十分な説明を受けることができます
- 4 治療方針の決定に参加し、ご自身の意思で医療を選択することができます
- 5 病気あるいはその治療方法などについて、他の医師もしくは他の医療機関の意見を聞くことができます
- 6 病院に対して意見や要望を述べることができます
- 7 プライバシーは保護・尊重されます

患者さんの責務

- 1 適切な医療を受けるため、自らの健康状態等、必要とされる情報をできる限り正確に担当の医療者に伝える責務があります。
- 2 検査や治療について納得して合意したその方針に意欲を持って取り組む責務があります。
- 3 自分自身を含めた全ての患者さんが快適な環境で医療が受けられるよう、病院の規則や病院職員の指示を守る責務があります。
- 4 提供を受けた医療に対し、医療費を支払う責務があります。

白井聖仁会病院の診療実績（平成30年12月 平成31年1月・2月）

	12月	1月	2月
1日平均外来患者数	401	401	365
1日平均入院患者数	168	180	184
月間新患者数	461	472	336
月間急患者数	77	136	53

放射線検査	12月	1月	2月
一般撮影	2019	1873	1949
マルチスライスCT（造影含む）	291	281	310
1.5T MRI（造影含む）	143	104	117
透視	55	35	64
マンモグラフィ	156	123	70